

copy multidot defocusing technic は膝スキャンのように描画性の低い場合に偉力を発揮し、再現性と detail の表現性に関してはフォトスキャンより勝れており、マルチドットスキャン像の横の走査線や bnck ground のような謄影の障害となる因子を除去し非常に鮮明な膝形態の描出に成功した。

質問：立野育郎（国立金沢病院放射線科） いろいろ人によって前処置が加えられているが、その差はあるであろうか。

答：平木辰之助 膝スキャン施行前には絶食させるだけで、特別の高たんぱく食とか注射薬を使用しなかった。

\*

## 16. 富山県立中央病院放射線科における RI 利用の現況

宮越和子 正谷 健

横山 弘 古本節夫

（富山県立中央病院放射線科）

わが放射線科においては、1965年7月より、RI を診

療に利用すべく核医学部門を発足させ、約1カ年半を経過した。われわれはその目標を一応X線にて認識不可能、もしくは困難な臓器の形態学的診断、面スキャンに重点をおいてすすめている。面スキャンの総件数は742件で、その内訳は、 $^{131}\text{I}$  による甲状腺スキャン439件、 $^{198}\text{Au}$  肝スキャン276件、 $^{203}\text{Hg}$  腎スキャン17件、 $^{131}\text{I}$  IMAA、肺スキャン7件、 $^{51}\text{Cr}$  脾スキャン3件で、おのおの59%、37%、2.2%、0.9%、0.4%となっている。この件数は、まず甲状腺に始まり、肝→腎→肺→脾と歩んだ過程を示す反面、保険診療に利約を受けない標識化合物を用いるスキャンの件数が多いという結果をも示している。非密封 RI による治療は、 $^{131}\text{I}$  内服による甲状腺機能亢進症のみで18件、内再治療は2件で1回投与量は4~9mCiの間にある。

さらに RI 入荷状態よりみた使用核種と量を示すとともに、施設各部門における汚染管理状況も合わせて報告した。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*